

野球独立リーグと NPB の地域活性化機能に関する研究—地域密着型スポーツの経済・社会的影響の分析—

北村 亮大

野球の独立リーグとプロ野球が地域経済や社会に与える影響を明らかにすることである。著者は小さいころから野球が好きで、プロ野球の試合をテレビでよく見ていた。特に北海道が地域に元気を与える存在になっていることを実感してきた。一方で、ニュースなどで独立リーグのチームが資金難や観客動員の減少に苦しんでいることも知り、同じ野球でも置かれている環境が大きく異なることに疑問を持った。本研究では、日本野球機構(以下、「NPB」とする。)に所属する北海道日本ハムファイターズと徳島インディゴソックス(独立リーグ)の2チームを取り上げ、それぞれがどのように地域社会と関わっているのかを比較・分析する。特に、チーム運営の仕組みや地域貢献活動(CSR)、そして地域に与える影響の違いに注目する。両チームの事例を通して、プロ野球と独立リーグの地域貢献のあり方や、スポーツが地方創生に果たす可能性について考察する。本研究は、野球が単なる娯楽ではなく、地域と人をつなぐ社会的な力を持つことを明らかにすることを目的とする。

人口減少の原因は、若者のことも考慮しつつ人口動態をとらえることである。加えて、労働力不足解消のための長時間労働の深刻化やワーク・ライフ・バランスが改善されないことにより、少子化がさらに進行していく悪循環が生じる恐れである。

しかし人口減少問題の解決は、行政による施策だけでは解決するほど単純ではない。地域に住む人々が主体的に関わり、地域を盛り上げていく取り組みが必要である。スポーツは年齢や性別、立場の違いを超えて人々を結びつける力を持っている。その中でも著者は、近年、地域活性化の手段としてスポーツが注目されており、その中でも野球は日本において長い歴史を有し、注目されているスポーツである。また、野球チームは、地域のシンボルとして多くの人々をつなげる存在であり、子どもたちへの夢の提供や地域イベントの活性化など、さまざまな形で地域社会に貢献している。そこで次章以降では、野球を通じた地域活性化の可能性について考察していきたい。

本章では、野球を通じた地域活性化のあり方を考える前に、まずプロ野球と独立リーグの違いについて整理する。それぞれの特徴を理解することで、野球が地域にどのような影響を与えているのかを検討することができる。

本論文では NPB と独立リーグの二つの中での地域貢献というテーマを、日本ハムファイターズ(NPB)と徳島インディゴソックス(独立リーグ)を中心に据えながら検討してきた。筆者自身も、野球の経験もしていちファンでもある中で CSR 活動を野球というスポーツで人口が増えるのかが思ったのがきっかけである。実際に調査を進めていく中で、北海道日本ハムファイターズと徳島インディゴソックス以外の野球チームが地域貢献活動に取り組み、

地域の状況と真剣に向き合い、地域と共に歩んでいこうとしていること、さらに言えばチームの成績や本拠地を置いているチームの成績が良いチーム程、地域貢献が可能であること言うこともわかった。野球を活用した地域活性化においては、経済効果の大きさのみならず、社会的価値の創出という視点が重要であることが示唆された。NPB と独立リーグは対立的な存在ではなく、それぞれ異なる強みを持つ補完的な存在として位置づけることができた。地域の特性や課題に応じて、どのようなスポーツ資源を活用するかを検討することが、持続可能な地域活性化に繋がった。総合的に言えば地域の交流があることで各県に良い活性化に繋がっていることは明白であろう。